

## “Learner Autonomy”を促し「確かな」コミュニケーション能力を育成する指導体制の研究開発

(限られた時間の中で、英語を使った授業を効果的に進めてゆくためには何が必要か？語彙を豊かにし、文法力を高めるためには何をすべきか？公立高校から大学に進学し、入学後&将来役立つ真のコミュニケーション能力を養成するためには、自分自身で勉強する姿勢や学習スキルを身につけることが肝要である。そのためにも、授業で英語使用の必然性を作り出すことで生徒に家庭学習の動機づけを行うと共に、適切なフィードバック体制の確立とセルフ・アクセス環境の整備を通じて、学校の内外における自学自習を促すための方策が検討されるべきであろう)

### 背景：

授業時数減少

生徒の語彙不足・文法基本知識欠如

英語による授業の定着度が今ひとつ（予習・復習のあり方は？）

「外語英表」指導法の更なる体系化と他学科への適用

CALLで何をすべきか

開校以来の文法の自学自習システムが機能しなくなっている

辞書指導の問題

クラスライブラリーのテコ入れ

### 基本方針：

原則として全学科対象

これまでの実践の整理と新課程科目の内容確立 +α (TV会議)

### 研究の柱：

- ① ICTの活用：新CALL教室を中心に、英語使用必然性の創出と個人差への対応  
他校との共同授業（ディベート、TV会議、共同プロジェクト）  
遠隔授業（海外姉妹校の授業）  
授業時間内の個別学習の充実  
授業外の自習支援
- ② T-Tの充実：英語表現を中心に、“fluency”だけでなく“accuracy”にも配慮  
自信を持って「話すこと」と「書くこと」を可能にする指導  
ディベートとエッセイ・ライティング  
効果的なフィードバック  
“Focus on Form”の視点  
カラーブックの改訂（文法シラバス面での整備）
- ③ 自学自習支援：コミュニケーション型授業を支え、定着させる家庭学習を促進  
新入生指導（中高ブリッジ）  
宿題・課題のあり方（文法学習プログラム・効果的な予習のさせ方）  
クラスライブラリー充実（インプットを補う）  
校内LANと外国語科サーバーの活用（リスニングと文法教材の蓄積とCALL教室外からのアクセス体制の整備・外国語科ホームページ整備）

\*測定テストの実施（余裕があれば評価方法の研究も考えられるが、今回はテスト実施にとどめておいて、次回？の研究開発に回す方がまとめやすいであろう）